http://www.edu.pref.kagoshima.jp/　（通巻第１７６５号）

指導資料

鹿児島県総合教育センター

技術･家庭(家庭),家庭 第38号
－中学校,高等学校,特別支援学校対象－
平成25年４月発行

家庭科における問題解決能力を育成する指導の工夫
－「生活の課題と実践」を通して－

学習指導要領において，中学校技術・家庭科家庭分野で学習した知識と技術などを活用し，これからの生活を展望する能力と実践的な態度を育む必要性から「生活の課題と実践」に関する指導事項が新しく設定された（**表１**下線部参照）。

また，高等学校家庭科では，学習を実際の生活と結び付け，問題解決の能力を身に付けさせる「ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動」については一層の充実を図ることが示された。

そこで本稿では，一層重視された家庭科における問題解決能力の育成について，中学校家庭分野「生活の課題と実践」の実践例を示し，その指導の工夫について述べる。

１　家庭分野における問題解決能力の育成

家庭分野では，身近な生活の課題を主体的に捉え，実践的・体験的な学習活動を通してその解決を図ることによって，よりよい生活を営む能力や実践的な態度を育成する指導の展開を目指している。特に，将来にわたって変化し続ける社会に主体的に対応していくためには，生活を営む上で生じる課題に対して，自分なりの判断をして課題を解決することができる問題解決能力を育む必要がある。

２　「生活の課題と実践」に関する指導の概要

(1)　指導内容

表１の四内容のうちＡ～Ｃの三内容の下線部事項を，生徒の興味・関心等に応じて１又は２事項を選択履修させる。

(2)　指導時期

必履修させる内容との組合せ方により，①学期中のある時期に集中させて実施，

表１　中学校技術･家庭科家庭分野の内容一覧

内容	Ａ　家族･家庭と子どもの成長	Ｂ　食生活と自立	Ｃ　衣生活･住生活と自立	Ｄ　身近な消費生活と環境
項目・事項	(1)　自分の成長と家族 ア　自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり (2)　家庭と家族関係 ア　家庭や家族の基本的な機能，家庭生活と地域とのかかわり イ　これからの自分と家族，家族関係をよりよくする方法 (3)　幼児の生活と家族 ア　幼児の発達と生活の特徴，家族の役割 イ　幼児の観察や遊び道具の製作，幼児の遊びの意義 ウ　幼児との触れ合い，かかわり方の工夫 エ　<u>**家族又は幼児の生活についての課題と実践**</u>	(1)　中学生の食生活と栄養 ア　食事が果たす役割，健康によい食習慣 イ　栄養素の種類と働き，中学生の栄養の特徴 (2)　日常食の献立と食品の選び方 ア　食品の栄養的特質，中学生の１日に必要な食品の種類と概要 イ　中学生の１日分の献立 ウ　食品の選択 (3)　日常食の調理と地域の食文化 ア　基礎的な日常食の調理，食品や調理用具等の適切な管理 イ　地域の食材を生かした調理，地域の食文化 ウ　<u>**食生活についての課題と実践**</u>	(1)　衣服の選択と手入れ ア　衣服と社会生活のかかわり，目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫 イ　衣服の計画的な活用や選択 ウ　衣服の材料や状況に応じた日常着の手入れ (2)　住居の機能と住まい方 ア　住居の基本的な機能 イ　安全な室内環境の整え方，快適な住まいの工夫 (3)　衣生活，住生活などの生活の工夫 ア　布を用いた物の製作，生活を豊かにする工夫 イ　<u>**衣生活又は住生活についての課題と実践**</u>	(1)　家庭生活と消費 ア　消費者の基本的な権利と責任 イ　販売方法の特徴，物資・サービスの選択，購入及び活用 (2)　家庭生活と環境 ア　環境に配慮した消費生活の工夫と実践

○内容は学習指導要領中学校技術･家庭科家庭分野から抜粋　○下線部は選択事項「生活の課題と実践」(３年間で１又は２事項)

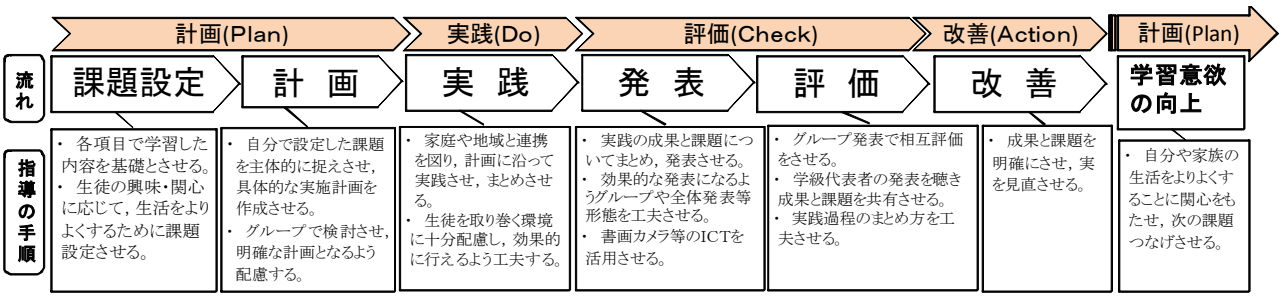


図1　問題解決的な学習の流れと指導の手順

②特定の期間を設けて継続的に実施，③実践活動のみ長期休業を活用して家庭において実施するなどの方法が考えられる。一般的には③の実施が多いが，いずれの場合も生徒が生活の課題を具体的に解決できる取組となるように学習の時期を考慮し，効果的に実施するよう配慮する必要がある。

(3)　指導の進め方

学習した内容を基礎とし，生徒が，興味・関心等に応じて家族・家庭や衣食住に関する課題を設定し，主体的に実習や調査などの学習活動に取り組めるようにする。また，計画(P)，実践(D)，評価(C)，改善(A)という一連の学習活動を重視し，問題解決的な学習を進めるようにする。実践についての指導の手順を**図1**に示す。

3　指導の実際

次の実践例は，鹿児島市立吉田南中学校の柿元慶子教諭の取組を基に作成したものである。

(1)　指導の工夫

ア　年間指導計画の作成

表2は，「生活の課題と実践」を1学年の内容C①，②及び2学年の内容B③に位置付けた指導計画例である。

1学年の内容Cで「食生活」と「住生活」の二つの「生活の課題と実践」

表2「生活の課題と実践」を1，2学年に取り入れた年間指導計画例

学年	項目＼時数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
1学年	学期	1学期												2学期																	3学期					
	学習内容(時数)	A(1)	C 衣生活・住生活と自立(11)											C 衣生活・住生活と自立(6)						C 衣生活・住生活と自立(11)											B 食生活と自立(6)					
	学習題材	ガイダンス	1 日常着の活用					2 日常着の手入れ 3 環境に配慮した衣生活					①生活の課題と実践	1 住まいの働き	2 安全な住まい				3 快適な住まい	1 布を用いた物の製作							②生活の課題と実践	1 布を用いた物の製作			1 健康と食生活					
	学習指導要領の事項	A(1)ア	C(1)アイ					C(1)ウ D(2)ア					C(3)イ	C(2)ア					C(2)イ	C(3)ア D(2)ア							C(3)イ	C(3)ア D(2)ア			B(1)アイ					
	授業時数	1	5					5					2	1	3				1	7							2	2			6					
2学年	学期	1学期												2学期																	3学期					
	学習内容(時数)	B 食生活と自立(22)																						A 家族・家庭と子どもの成長(13)												
	学習題材	1 健康と食生活	2 食品の選択と保存							3 調理をしよう			③生活の課題と実践	3 調理をしよう					4 地域の食材と食文化					1 私の成長と家族	2 私たちと家族・家庭と地域		④ホームワーク	3 幼児の生活と遊び								
	学習指導要領の事項	B(1)アイ	B(2)アイウ							B(3)イ D(2)ア			B(3)ウ	B(3)イ D(2)ア					B(3)ア					A(1)ア	A(2)アイ			A(3)アイ							
	授業時数	2	7							2			2	4					5					3			2	8								
3学年	学期	1学期								2学期									3学期																	
	学習内容(時数)	A 家族・家庭と子どもの成長(8)								D 身近な消費生活と環境(9.5)																										
	学習題材	4 幼児との触れ合い						⑤ホームワーク	5 これからの私と家族	1 家庭生活と消費			2 購入商品の選択と		3 生活のためによりよい消費				4 環境に配慮した生活																	
	学習指導要領の事項	A(3)ウ							A(2)イ	D(1)アイ									D(2)ア																	
	授業時数	5						2	1	1			2		2				4.5																	

〈指導の留意点〉
○ 「生活の課題と実践」は，3年間で1又は2事項選択して実施する。
　なお，内容Cで「衣生活」と「住生活」をそれぞれ分けて実施した場合（表2の①，②）は，2事項ではなく1事項とカウントする。
○ 「生活の課題と実践」 は，保護者会等で実施について周知し，家庭の協力を得られるよう，連携を深める。

指導時数	A	B	C	D	計
	22	28	28	9.5	87.5

（**表２**①，②）を，２学年の内容Ｂで「食生活」の「生活の課題と実践」を取り入れた（**表２**③）。これらの学習活動は，問題解決能力の育成の視点から，ＰＤＣＡサイクルでの学習を繰り返すことで定着が図られると考えるので，２，３学年で長期休業中の課題（以下「ホームワーク」という）として取り組むよう計画した（**表２**④，⑤）。

イ　ユニットの設定

表２で位置付けた「生活の課題と実践」を，１回ごとのＰＤＣＡサイクルによる一連の学習（以下「ユニット」という）として意識的に設定した（**表３**）。選択履修事項としては，①～③のユニットで習得となるが，ここでは，④，⑤をホームワークとして継続し，５ユニット設定した。このことは，３年間を通して，問題解決的な学習を繰り返し指導することによって，ＰＤＣＡサイクルでの学習活動を定着させ，実践活動のみ長期休業を活用して家庭において実施することで，家庭や地域との連携を強化しながら，問題解決能力の育成を図ることにつなげるねらいがある。学習を繰り返し実践することで，問題解決的な学習の質及び定着の向上をスムーズに図ることができる。さらに，このことが，連続性や系統性を一層重視した，高等学校家庭科の必履修科目の問題解決的な学習内容である「ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動」の効果的な学習指導につながると考える。

(2)　思考過程を把握するワークシート

図２のワークシートは，**表３**②ユニットで作成したワークシートである。ワークシートは，ＰＤＣＡサイクルによる学習活動において，生徒の思考過程が把握できるように記入欄の工夫が必要である。

表３「生活の課題と実践」の主な学習活動とユニット例

学年	流れ			主な学習活動
1学年	①ユニット	C 衣生活・住生活と自立		
		P	計画	○　衣生活の学習を振り返り，疑問に思ったり，調べたりしたいことを書き出し，課題を設定する。
		D	実践	○　課題の解決を目指して，自分なりに工夫して，製作や調査などに取り組む。
		C	評価	○　衣生活に関する製作や調査などの実践の成果と課題についてまとめたり，発表したりする。 ・グループ…自分の実践発表 ・学級全体…代表者の発表
		A	改善	○　衣生活に関する自分の実践が適切であったかどうかを振り返り，よりよくすることを考える。
	②ユニット	C 衣生活・住生活と自立		
		P	計画	○　住生活の学習を振り返り，疑問に思ったり，調べたりしたいことを書き出し，課題を設定する。
		D	実践	○　課題の解決を目指して，自分なりに工夫して，製作や調査などに取り組む。
		C	評価	○　住生活に関する製作や調査などの実践の成果と課題についてまとめたり，発表したりする。 ・グループ…自分の実践発表 ・学級全体…代表者の発表
		A	改善	○　住生活に関する自分の実践が適切であったかどうかを振り返り，よりよくすることを考える。
2学年	③ユニット	B 食生活と自立		
		P	計画	○　今までの食生活の学習を振り返りながら，条件を満たす給食の献立を共通テーマとして設定し，1食分を作成する。
		D	実践	○　課題の解決を目指して，自分なりに工夫して，製作や調査などに取り組む。
		C	評価	○　日常食又は地域の食材を生かした調理などの実践の成果と課題についてまとめたり，発表したりする。 ・グループ…自分の実践発表 ・学級全体…代表者の発表
		A	改善	○　食生活に関する自分の実践が適切であったかどうかを振り返り，よりよくすることを考える。
	④ユニット（ホームワーク）	A 家族・家庭と子どもの成長		
		P	計画	○　今までの幼児の生活と家族の学習を振り返りながら，幼児の遊び道具を製作する。
		D	実践	○　課題の解決を目指して，自分なりに工夫して，幼児の遊び道具の製作などに取り組む。
		C	評価	○　製作や幼児と触れ合う活動などの実践の成果と課題についてまとめたり，発表したりする。 ・グループ…自分の実践発表 ・学級全体…代表者の発表
		A	改善	○　製作や幼児と触れ合う活動に関する自分の実践が適切であったかどうかを振り返り，よりよくすることを考える。
3学年	⑤ユニット（ホームワーク）	家庭分野の全内容		
		P	計画	○　自分や家族の生活をよりよくすることに関心をもち，主体的に課題を発見し，解決を目指して計画を作成する。
		D	実践	○　課題の解決を目指して，自分なりに工夫して，製作や調査などに取り組む。
		C	評価	○　自分や家族の生活の課題に関する製作や調査などの実践の成果と課題についてまとめたり，発表したりする。 ・グループ…自分の実践発表 ・学級全体…代表者の発表
		A	改善	○　自分の実践が適切であったかどうかを振り返り，よりよくすることを考える。

2学年　　3学年

3年間の繰り返し学習

問題解決能力の育成

○　ユニット
「生活の課題と実践」を実施する場合の1回の取組（PDCAサイクルでの学習）ごとのまとまりをいう。

○　指導の工夫
3年間の繰り返し学習で問題解決的学習の質の向上及び定着を図る（5ユニットの実施）。

また，「自分の課題候補」，「友達の意見から気付いたこと」，「この課題に決定した理由」等実践計画の作成や課題の決定における生徒の思考過程が把握できるように工夫を重ねていくことも大切である。

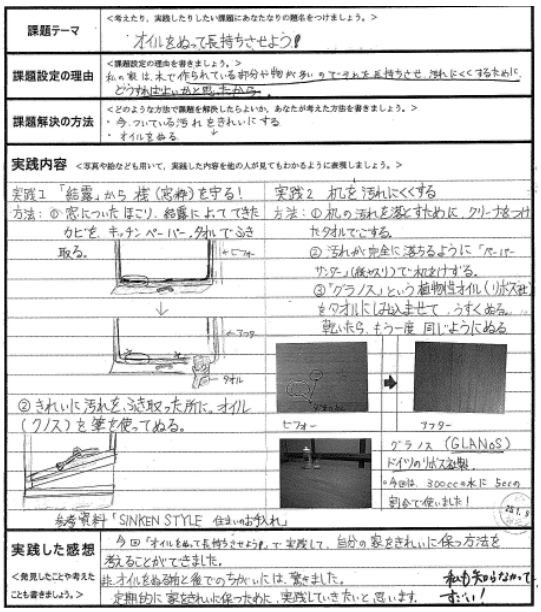


図２　ワークシート例（一部抜粋）

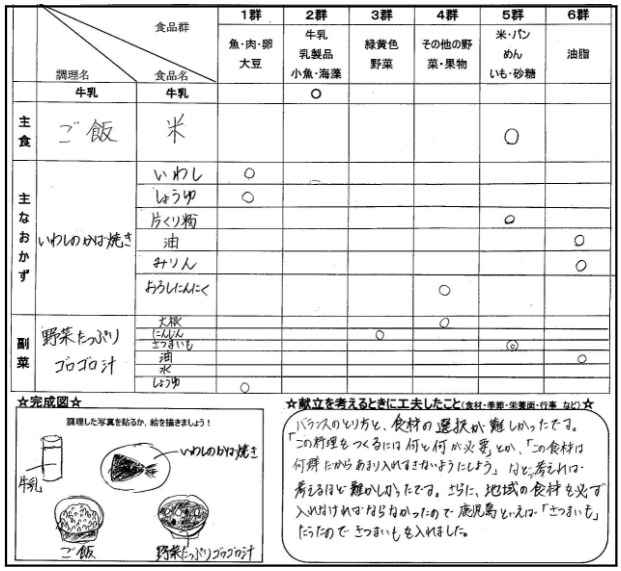
表４は，**表３**の③ユニットの課題とワークシートである。内容Ｂで学習した中学生の１日に必要な栄養的特徴，日常食の献立作成，食品の選択及び地域の食材活用等の知識，技術を生かして，実際の給食センターの１食分の献立作成し，献立として採用されたものである。

ワークシートは，単に実践活動後の発表や評価への活用だけでなく，評価したことを生徒一人一人の課題の解決に向けて，個に応じた指導の充実につなげる工夫も必要である。

「生活の課題と実践」の評価については，学校における実践活動である課題設定，計画及び実践後の発表を通して，①「生活や技術への関心・意欲・態度」，②「生活を工夫し創造する能力」について評価する。

表４　③ユニットとワークシートの例（一部抜粋）

	内　容
課題設定	○「給食の献立を作成しよう」
課題設定の理由	○　内容「B　食生活と自立」の学習後，学習したことを生かして，クラスの共通テーマとして設定し，給食センターの献立の1食分を作成する。
計画 (献立作成条件)	○　学習したことを生かして，次の条件を献立に反映する。 １　必ず牛乳(200ml)を付ける。 ２　１食分約270円(牛乳を含む)で考える。 ３　旬の食材又は，地域の食材を必ず使用する。 ４　六つの基礎食品群を全て使用し，バランスを整える。
実践内容	○　献立 主菜　「いわしのかば焼き」 副菜　「野菜たっぷりゴロゴロ汁」
発表	長期休業中に献立を作成し，最初の授業時に書画カメラ等のICTを活用して，学級で発表し成果や課題を共有する。 ・グループ ４人程度のグループで自分の実践発表し，相互評価をする。 ・学級全体 代表者の発表で成果や課題を共有する。



さらに，**表３**の⑤ユニットの場面等で，高等学校家庭科の「ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動」の問題解決的な学習活動にも触れ，中学校での学習が高等学校にどのようにつながっていくか連続性，系統性の意識付けを行うことが望ましい。

今後は，県内各地区の研究会等で特色ある事例の情報交換や評価に関する共同研究等が活発になされ，取組が充実することを期待したい。

－引用・参考文献－
○　文部科学省『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』
平成20年９月　教育図書
○　文部科学省『高等学校学習指導要領解説 家庭編』
平成22年５月　開隆堂
○　国立教育政策研究所『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料　中学校　技術・家庭』　平成23年11月
○　中等教育資料　平成24年８月号

（教職研修課）